

坂城中 浅野井亮太さん バレーボール長野県選抜として全国大会へ出場！



▲(左から) 坂城中バレー部顧問 井出教諭、山村町長、浅野井さん、塚田教育長、坂城町体育協会 高井会長

坂城中学校バレーボール部に所属する浅野井亮太さんが長野県選抜として選出され、12月25日(月)から大阪府で開催された「第37回全国都道府県対抗中学大会」に出場しました。

12月15日(金)、町長を表敬した際には、「選抜に漏れてしまったメンバーのためにも、最高のパフォーマンスをしてきたいと思います」と浅野井さんはお話していました。

12月26日(火)、初戦の大阪南(大阪府)と対戦し、アウトサイド(レフト)としてチームを支えましたが、残念ながら0対2で敗退となりました。お疲れ様でした！

北海道森町から無償提供されたホタテを 町内小中学校の学校給食でいただきました



12月20日(水)、町内の小中学校の学校給食で北海道森町からいただいたホタテを使った「北海道海の恵み応援献立」が提供されました。

これは、東京電力福島第一原発の処理水の放出を受けて中国が日本産の水産物の輸入を全面的に停止したことにより大きな影響を受けた、ホタテ養殖が盛んな北海道森町が全国の学校給食にホタテおよそ50万食分を無償で提供してくれることになり実現したものです。

坂城小学校では、給食の時間の放送で森町から無償提供されたホタテを使った給食であることが紹介され、食事が始まると、ホタテフライを先に食べるか後に残しておくか友だちと嬉しそうに話している児童や、早速食べて「大きくて美味しい！」「衣がサクサクで、ホタテがプリプリで美味しい！」と話す児童など、「特別な」給食を楽しそうに食べていました。

6年1組では、事前に森町のこの取り組みについて学んでいて、児童からは「森町の取り組みがすごい」「ホタテを販売できるようにするためには多くの人の手がかかっていることを知った」「森町の皆さんに感謝の気持ちを持って食べたい」「私たちが美味しく食べて安全であることを示したい」「給食に出るくらい安全であると伝えたい」など、さまざまな意見が出ていました。

町では、令和5年4月から町内の小中学校の学校給食費を無償化しています。引き続き、安心安全な学校給食を提供していきます。



「こどものひろま in くりすます」が開催されました



12月20日(水)、老人福祉センターで「こどものひろま in くりすます」が開催され、ファミリーサポート協力会員、民生児童委員、個人ボランティア13名を含む、総勢52名の参加がありました。

当日は、参加した中学生4名にもボランティアとして協力してもらい、子どもたちは各々、ホイップやフルーツを盛り付けて、自分だけのオリジナルクリスマスケーキをつくったり、ねずこんや3人組のサンタクロースと一緒に楽しい時間を過ごしていました。

「こどものひろま in 夢の湯」は、老人福祉センターで奇数月の第3金曜日、午後4時から開催しています。参加してみたい方は、坂城町社会福祉協議会にお問い合わせください。また、ボランティアとして活動して下さる方を募集しています。子どもから大人まで、年齢・性別を問いませんので、興味のある方は、坂城町社会福祉協議会までご連絡ください。

◎問い合わせ先 坂城町社会福祉協議会 ☎82-2551

竹内明雄さん 米国機械製造業協会 殿堂入り！



▲授賞式にて（提供 ㈱竹内製作所）



▲1月4日(木)、(公財)さかきテクノセンター・テクノハート坂城協同組合主催で開催された賀詞交歓会にて

株式会社竹内製作所の創業者で会長の竹内明雄さんが、アジア人として初めてアメリカの業界団体「Association of Equipment Manufacturers (米国機械製造業協会)」の殿堂入りをしました。

米国機械製造業協会は、米国にある建設機械や農業用機械の事業者などで構成されており、2008年から、この分野で先駆的な活躍をしている個人を称え、殿堂に迎え入れています。殿堂入りを認められるには、革新性、業界への貢献度、リーダーシップ性、社会的責任の4つの観点から審査され、すべてを満たしていることが求められます。

竹内会長は、1963年の竹内製作所設立以来、顧客のニーズをいち早く的確に把握し、世界初のミニショベルやクローラーローダーを開発しました。これにより建設業界に革新を起し、作業の効率化に貢献したことなどが評価されました。また、竹内会長は、まちづくりや産業振興など、町の発展に多大な貢献をされており、2019年には名誉町民として顕彰しています。

殿堂入り、本当におめでとうございます！